
幻想

正月一日 桃架

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

幻想

【Nコード】

N5599C

【作者名】

正月一日 桃架

【あらすじ】

『この世』に存在する三つの『鍵』。ソレを管理する女性と羅陵王という男性。鍵とトビラ。狙うモノは数多し。そして、悩むモノもまた数多し。未来分からぬ物語。

鍵とトビラ

全ては幻想のように儚く、脆い

ソレはヒトと同じコト――。

この世には三つ『鍵』がある。

一つは『生』の鍵。

『魂』という器が保管されているトビラを開ける。

二つめは『死』の鍵。

『魂』という器を壊し、その魂を常世^{トコロ}へと繋ぐトビラを開ける。

そして、三つ目。

三つ目は『この世』の鍵。

『この世の鍵』はどの『世界』にも影響するカギ。

ある言い伝えがある。

『この世のカギが消滅、あるいは悪しきモノに渡った時世界は滅びる』

と。ありきたりだが、コレには深い理由があると一人の女性は考える――。

「『世界』は全てじゃない。自分が分かる範囲が『世界』よ」

『鍵』を管理する女性。『春夏秋冬 皐月』（ヒトトセ サツキ）。皐月はいつも着物を着ている。柄はいたってシンプルで黒地に白色の蝶。『鍵』はどこに在るかは知らないが、常に自分が持っていると言っ。

月の綺麗な晩、皐月は庭に居た。月は何を照らすコトもなくただ輝

いている。

「ラリヨウオウ羅陵王。貴方のしようとしているコトは無理なのよ」

静夜に願うコト。

庭に誰かが入って来たようだ。

分からぬモノは永遠に分からない

入って来たのはまだ十歳くらいの幼い少女。少女は白色のワンピースを着ていて髪は肩ぐらゐまで伸びている。

少し、足が透けている。

「今晚は。何か用かしら」

「……教工て下サイ」

少女が片言気味に話す。視線は地面を見ていてその瞳は虚ろ。

「何を？」

「自分八、どうなったのですか……？」

皐月は微笑んだ。

「死んだのよ」

「やっぱリ……。どうすればいいですか……？」

「私が聞いてあげる。逝く処は怖くないから。恐れなくて」

「はい……」

何かが合さるような音がした。

皐月の後ろが光輝き、その輝きは月の光よりも美しかった。

皐月の背後から黒色のトビラが表れた。
そのトビラは音をたてて、開き始めた。
トビラの向こうは見えない。

「——どうぞ」

「有り難うございまシタ」

少女はそれだけ言うと、トビラの向こうへと消えていった。
トビラは消え、輝いているモノは月の光のみだった。

つづく

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5599c/>

幻想

2010年10月11日02時02分発行